

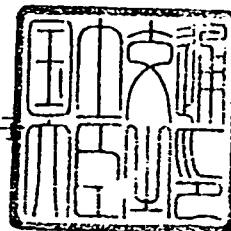


認定書

国住指第 8142 号
平成 15 年 1 月 29 日

積水化学工業株式会社
代表取締役 大久保 尚武 様

国土交通大臣 林 寛子



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ[防火区画貫通部 1 時間遮炎性能]の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

PS060WL-0103

2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

給・排水管/アクリル系樹脂シーリング材・ロックウール板・黒鉛含有ブチル
ゴムシート裏張アルミニウムはく張ガラスクロス充てん/壁耐火構造/貫通部分

3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

別添の通り

(別添)

1. 構造名

給・排水管/アクリル系樹脂シーリング材・ロックウール板・黒鉛含有ブチルゴムシート裏張
アルミニウムはく張ガラスクロス充てん/壁耐火構造/貫通部分

2. 寸法及び形状等

(寸法単位: mm)

項目	申請構造
開口部	(面積) 0.0227㎡ 以下 (φ0.170m以下) (形状) 円形
占積率 (開口面積に対する給・排水管断面 積の総合計の割合)	44.97% 以下
貫通する壁の構造等	中空壁 (両面せっこうボード 厚12.5以上 重張) 厚さ 100以上 (両面に厚8以上のスラグせっこう系セメント板の上 に厚12以上のせっこうボードを張ったもの) 厚さ 100以上 (両面に厚16以上の強化せっこうボードを張ったもの) 厚さ 100以上 (両面に厚12以上の強化せっこうボードの上に厚9以上 のせっこうボード又は難燃合板を張ったもの) 厚さ 100以上 (両面に厚9以上のせっこうボード又は難燃合板の上 に厚12以上の強化せっこうボードを張ったもの) 厚さ 100以上 ALCパネル 厚さ 100以上 コンクリート 厚さ 100以上

(別添-1)

3. 材料構成

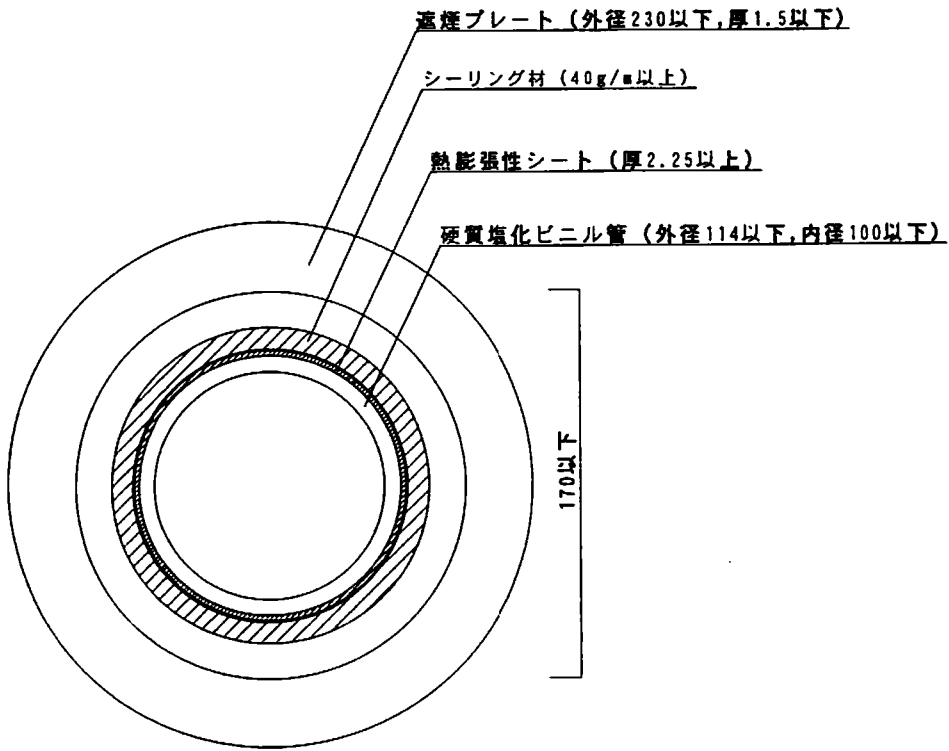
(寸法単位：mm)

項目		申請構造		
給・排水管	硬質塩化ビニル管	規格	JIS K 6741, JIS K 6742	
		外径	114以下	
		内径	100以下	
防火措置材料	膨張材 (以下、熱膨張性シートという)			
	ロックウール板	規格	平成12年建設省告示第1400号	
		密度	40kg/m ³ 以上	
		幅	25以上×2 (貫通部分50以上)	
	遮煙プレート	プレート	材質	(1)～(12)のうち、いずれか一仕様とする (1)ポリエチレン系樹脂 (2)アクリル系樹脂 (3)シリコン系樹脂 (4)塩化ビニル系樹脂 (5)塗装熔融亜鉛めっき鋼板 JIS G 3312 (6)熔融亜鉛めっき鋼板 JIS G 3302 (7)熔融亜鉛-5%Al-Ni合金めっき鋼板 JIS G 3317 (8)クロームめっき鋼板 (9)ステンレス鋼 (10)鉄 (11)アルミニウム (12)アルミニウム合金
			外径	230以下
			厚さ	1.5以下
		粘着テープ	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)粘着テープ (2)接着剤	
			(1)粘着テープ	材質
			使用量	500g/m ² 以下
		(2)接着剤	材質	1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)天然ゴム系 2)合成樹脂系
			使用量	500g/m ² 以下
	シーリング材		規格	JIS A 5758
			材質	(1)～(7)のうち、いずれか一仕様とする (1)アクリル系樹脂 (2)アクリルウレタン系樹脂 (3)ポリウレタン系樹脂 (4)シリコン系樹脂 (5)変成シリコン系樹脂 (6)ポリサルファイド系樹脂 (7)変成ポリサルファイド系樹脂
使用量			40g/m ² 以上	

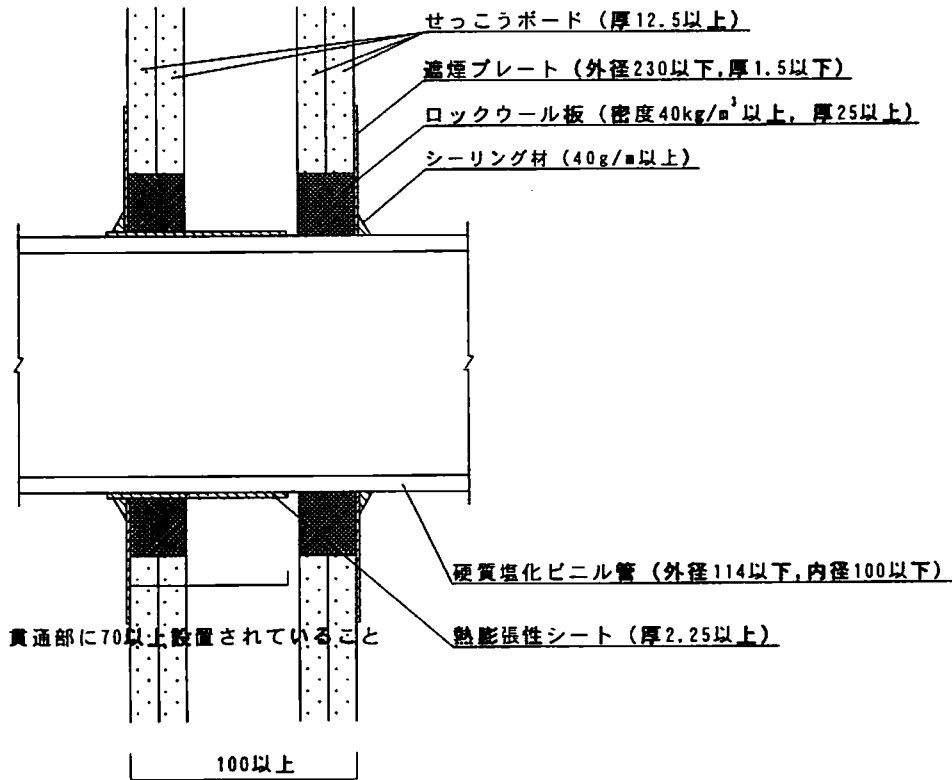
4. 構造説明図

(寸法単位：mm)

・正面図



・断面図

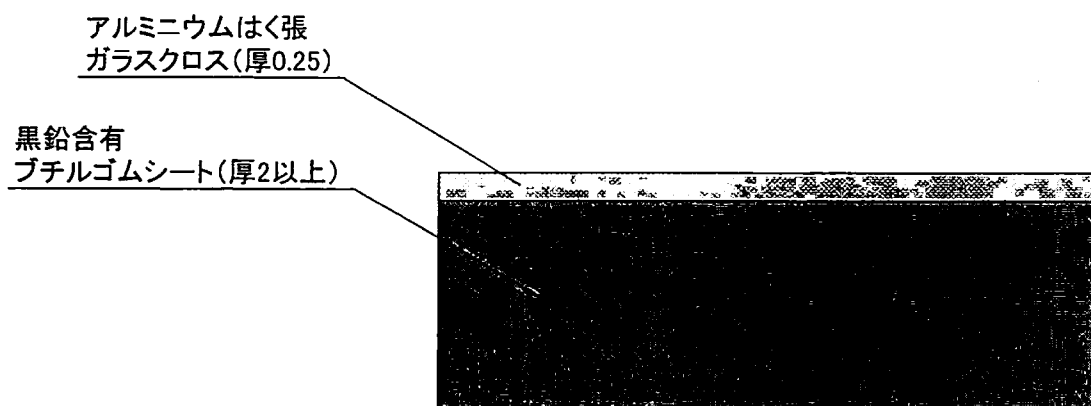


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

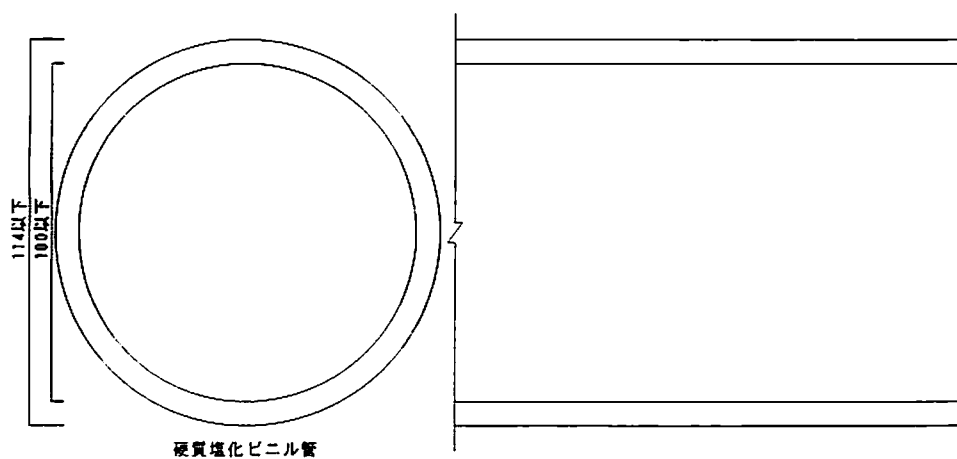
(別添-3)

(寸法単位：mm)

熱膨張性シート構成図



硬質塩化ビニル管図



注) 寸法および材料構成は2 および3 のとおり

5. 施工方法等
＜施工手順＞

(1) 事前準備

開口部の設置

管が区画貫通する位置に予め開口部を設置する(開口径φ170mm以下)。

(2) 区画貫通処置

(2)-1 配管前の場合

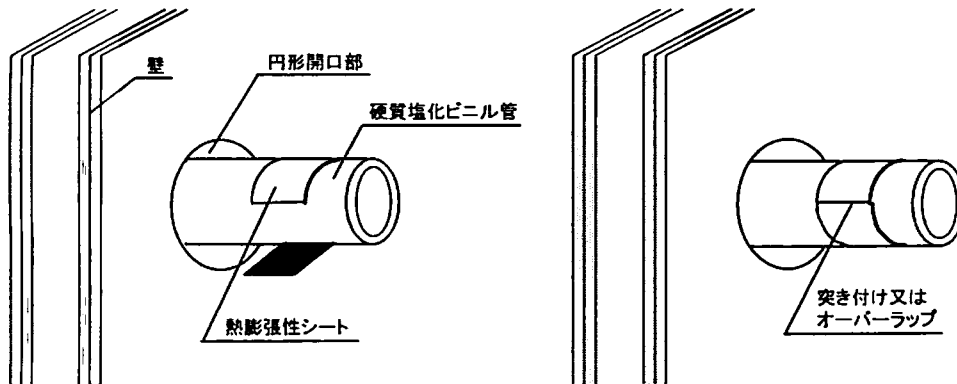
①熱膨張性シート巻き付け位置の設定

パイプ継手位置から開口部までの長さを測り、熱膨張性シートを巻き付ける位置に墨出しをする。

墨の位置は巻き付けた熱膨張性シートが確認でき、かつ熱膨張性シートが70mm以上貫通部に入る位置となるようにする。

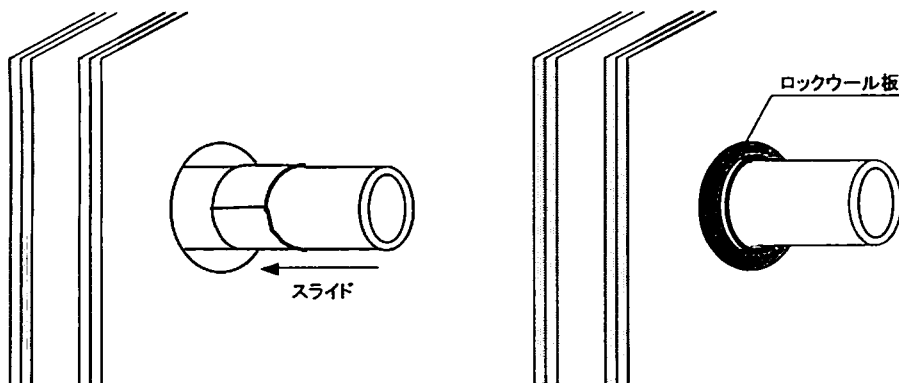
②熱膨張性シートの巻き付け

上記墨出しした位置に従い、熱膨張性シートを巻き付ける。熱膨張性シートは巻物のまま直接管に巻き付けてもよいし、所定の長さに予め裁断したものを巻き付けてもよい。また、熱膨張性シート巻き付けの初端と終端は隙間なく必ず接するように巻き付ける(オーバーラップ可)。

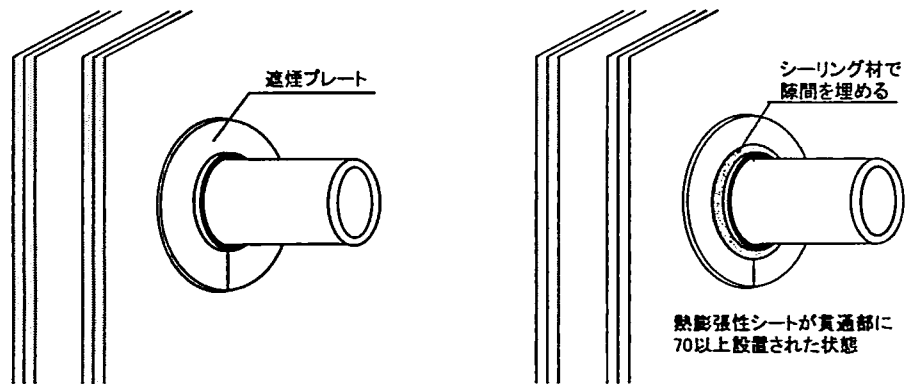


③開口部の処理

管をスライドさせ、所定の位置に設置し、両壁面側の隙間にロックウール板を充てんする。ロックウールはシート状のものを25mm以上の幅で切断したものを充填してもよいし、円筒状のものを25mm以上の幅で切断したものを挿入してもよい。



続いて、遮煙プレートを貼り、パイプとの隙間をシーリング材で充てんする。



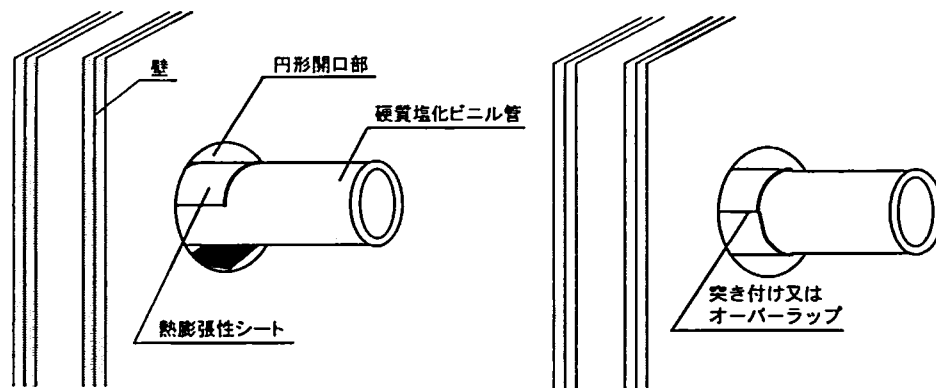
(2)-2 配管後の場合

①熱膨張性シート巻き付け位置の設定

熱膨張性シートが70mm以上貫通部に入る位置に管への墨だしをする。

②熱膨張性シートの巻き付け

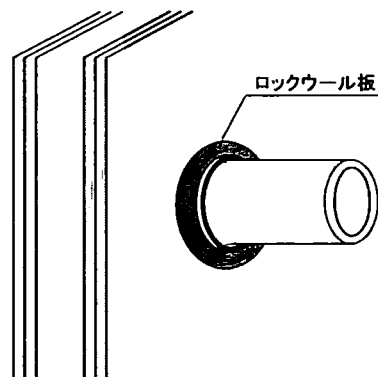
上記墨出しした位置に従い、熱膨張性シートを巻き付ける。熱膨張性シートは巻物のまま直接管に巻き付けてもよいし、所定の長さに予め裁断したものを巻き付けてもよい。また、熱膨張性シート巻き付けの初端と終端は隙間なく必ず接するように巻き付ける(オーバーラップ可)



③開口部の処理

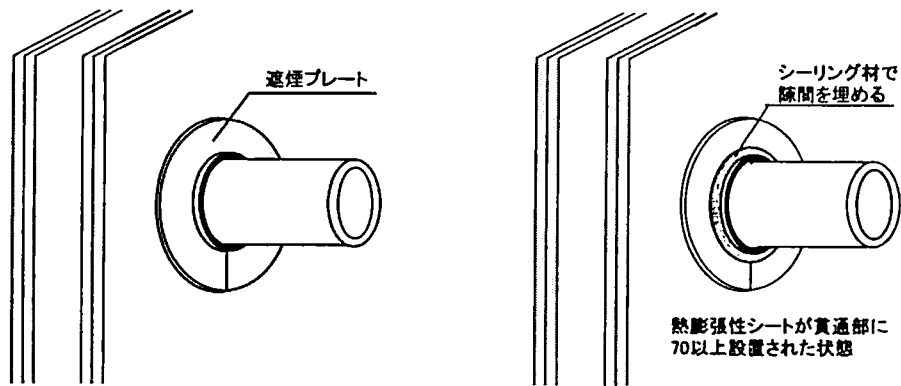
両壁面側の隙間にロックウール板を充てんする。

ロックウールはシート状のものを25mm以上の幅で切断したものを充てんしてもよいし、円筒状ものを25mm以上の幅で切断したものを挿入してもよい。



(寸法単位：mm)

続いて、遮煙プレートを貼り、パイプとの隙間をシーリング材で充てんする。



<施工図>

